

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300236	事業の開始年月日	平成24年11月1日
		指定年月日	平成24年11月1日
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花織たかつ南		
所在地	(〒213-0026) 川崎市高津区久末2112-1		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	18名
		宿泊定員	9名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花織たかつ南は、昨年の7月から名称が、花物語たかつ南から『花織たかつ南』に変更致しました。</p> <p>花織たかつ南は、武蔵新城駅より綱島駅行き約15分のところにあり、近隣には川崎野菜の畑が広がる静かな環境の中にあります。</p> <p>地域密着サービスである「小規模多機能居宅介護」と認知症高齢者の為の「グループホーム」を同一建物内に併設しています。</p> <p>施設理念の「笑顔ある暮らし」に基づいて、家庭的な雰囲気を大切に、活気ある毎日を送っていただけるように、笑顔の絶えない環境づくりに取り組んでいます。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月25日	評価機関 評価決定日	平成27年5月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所はJR南武線武蔵新城駅からバスで10分、徒歩5分ほどの住宅地の中にある。建物は3階建てで、1階が小規模多機能型居宅介護、2階・3階は同法人のグループホームが併設されている。法人はグループホームや小規模多機能型居宅介護、複合型サービス、訪問看護、有料老人ホーム、高齢者住宅など多くの事業所を展開している。同法人では、小規模多機能型居宅介護事業所の名称を「花物語」から「花織」に順次変更しており、当事業所も昨年7月に「花織たかつ南」と改称した。</p> <p><b>【地域とのつながり】</b> 事業所理念の1つである「地域に愛される施設」に基づいて地域連携を進め、開所2年目にして、早くも地元の町内会や小学校との連携がスムーズに行われている。防災訓練の際に1件ずつ、チラシを持って説明に行ったり、地域の敬老会への利用者の参加を支援したり、民生委員の集まりに出向いて事業所の説明をするなど積極的に活動している。事業所が行う夏祭りや敬老会にも地元の子供たちが参加し、利用者と交流を持っている。</p> <p><b>【法人の連携】</b> 法人は様々な事業を展開しており、在宅サービスや施設、小規模多機能型居宅介護といったサービスを、その時の状況によって使い分けることができる。重度化した場合も、小規模多機能型居宅介護または複合型サービスを利用して在宅生活を継続するか、グループホームや有料老人ホームに入所するか、相談しながらサービスを選択することができる。また、職員も法人内で連携しており、研修や会議等で問題点を共有し、サービス質の向上に努めている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花織たかつ南
ユニット名	小規模多機能居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を玄関・事務所・各ユニット・休憩室に掲示している。職員全員が理念に添った支援を心掛け安心かつ楽しく過ごし、これまでの生活をできる限り継続する事ができるよう支援していきます。	理念は事業所開設準備時に職員間で話し合い作成した。入職時研修で理念について学ぶほか、倫理規定の研修の中で、毎年理念についても理解を促している。申し送り時やカンファレンスの際に話し合っている。理念は3つの項目があるが、利用者も職員も「笑顔」になる毎日を目指し、支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや敬老会や小学校のバザーに参加し、散歩途中には近隣の方に積極的に挨拶をしています。近隣の幼稚園と交流を兼ねてイベントを開く計画を立てています。	理念の3つ目にもあるように「地域に愛される施設」を目指している。小学校で行われる敬老会やバザーに利用者と共に参加している。婦人会からフラダンスや歌、音楽のボランティアの訪問があったり、事業所の夏祭りには地域の住民や子供たちが多数来所して、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設避難訓練・施設での救命講習など民生委員・近隣の方々に参加頂き問題点などを一緒に考えて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開き地域との関わりや地域で行っている行事などの意見を伺い参考にしています。	2か月に1度、町内会副会長、民生委員、利用者家族、地域包括支援センター職員、成年後見人、オーナー夫妻などの参加を得て、グループホームと共同開催している。事業の報告や地域のことなどで意見交換している。民生委員の要望で、管理者が町内会の老人会で小規模多機能型居宅介護のサービスについて説明をした。5月12月の運営推進会議では、同日に避難訓練を行い、意見をもらった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では施設の現状を伝えアドバイスを頂いたりしています。地域包括支援センターからの受入れの相談を頂いています。	高津区と中原区の窓口で事業所開設の相談や問い合わせなどを行った。利用者の要介護認定の更新申請に担当窓口まで行っている。生活保護受給者のサービス利用について行政からの相談を受けている。地域包括支援センターからも、困難事例について相談がある。川崎市の小規模多機能型事業者連絡会で職員の交換研修などを行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議時に「身体拘束ゼロの手引き」をもとに勉強会を開いています。施設玄関については防犯上施錠されていますが、利用者様のご希望に応じて職員と共に外出いただいています。	年に1回、虐待防止と共に身体拘束廃止の研修を行っている。言葉による拘束も虐待にあたると日頃から注意している。日中、玄関の鍵はかけているが、2階3階のグループホームや庭への出入りは自由にできるようにしている。落ち着かないそぶりが見えた時は、一緒に庭に出たり、散歩に行くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で事例検討を含めどの様な場合が虐待になるか話し合い理解を深めています。職員も日常的に見過ごさない様に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進委員会で成年後見人制度の話が聞く機会があり必要な知識として話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご説明時に時間をかけお互いにご納得上で登録をいただいています。特に利用方法に関する疑問を具体的に説明し小規模の柔軟性をお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ノート・送迎時や随時の電話連絡によりご家族からの要望・意見を取り入れるように努めています。要望・意見があった際には支援経過記録に記録し反映させています。	「連絡ノート」は、通い時に使用するものと、訪問時に使用するものの2つがあり、どちらにも家族の意見を書いてもらっている。電話やメールのほかに、送迎時に話を聞くこともある。利用料請求時に「おたより」を同封している。利用者から「今年はしめ縄を作らないの？」と聞かれ、年末のアクティビティに加えたケースがある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロアー会議や日々の朝礼にて意見交換し、目安箱を置き意見をいただいています。	月に1度のスタッフ会議で、カンファレンスや研修を行い意見交換している。職員から「入浴介助が同じ職員ばかりに偏っている」との意見があり、スタッフ会議で話し合い、当番表を作り交代で行うことにした。日ごろから職員同士で話をして、業務改善できる点は行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時期に個人面談を行い、就業時間の増減や契約社員や社会保険の加入についての希望、契約条件の確認を行っています。意欲のあるものには、リーダーやその上をめざしてもらえる様に伝えています。無資格者には資格取得制度などの奨学金制度も整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加や資格取得を推奨するなど個々のスキルの向上を働きかけています。社内他施設への実習・実習生を迎える事でお互いの気づきを得ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	川崎市小規模連絡会に参加し同業者との交流で事例検討などの勉強会を行い情報交換やネットワークの向上に努めサービス向上を心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に出来る限りご本人に見学に来ていただき、ご納得の上ご利用していただく様に努めています。ご本人の要望や不安を聞き、利用開始前にはアセスメントをしっかりと取り利用後のケアに活かします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること不安な事、施設での過ごし方の希望など伺い安心してご利用頂ける様にスタッフ間で相談し対応しています。送迎時の立ち話の中に本音が見えてくので持ち帰り共有に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期の段階でご本人やご家族のニーズに当サービスが十分に対応出来るかどうか考慮し他のサービスの利用が適切か見極め他の施設への紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、これまでの生活習慣等を考慮に入れ、ご利用者のペースで何か役割と思える事と生活のハリとなる事が出来るように徐々に働きかけ、共に支えあう間柄になる様に努めます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の意見を反映できるように、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならない様心がけています。泊まり・通い・訪問を柔軟に組み合わせ提案させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の商店・スーパーなどで買い物ができるように支援しています。 送迎時等に近隣の方にご挨拶を、時にはご協力をいただく事もあります。	訪問時や通いの帰りに、馴染みの商店で買い物の支援を行っている。地域の敬老会への参加支援を行い、昔なじみの方と歓談する機会を作っている。月に1回「諸国漫遊の日」と称してデパートの物産展で地方の和菓子を購入し、話題作りを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の出来る事、出来ない事を把握し無理なくレクレーションや季節の行事を楽しんで参加できる場への声掛けや役割を作り出すように努めています。食事の席の配膳にも気を付けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス事業者へ情報提供をご家族様了承のもと提供し支援を行っています。 手紙など何か困った事があった時は連絡して頂けるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中での会話・表情・仕草・アセスメントを基に思いや希望を把握し申し送りやフロアー会議などスタッフ間で共有しています。また家族にも伝えご協力いただき支援しています。	訪問時や送迎の折に話を聞く機会がある。日常の何気ない会話や、入浴介助の時などに利用者の思いを聞き出す努力をしている。行動や表情から察することもある。思いや希望は個人記録に記載し、カンファレンス時に職員間で共有している。利用者から「お墓参りに行きたい」との希望を聞き、家族に伝え実現したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取り、ご利用前の担当ケアマネジャーからの情報、ご家族からの「私の歴史」「暮らしの情報」をご記入いただく事により生活習慣が継続出来る様経過把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り・申し送りノート・フロアー会議で各スタッフから出された情報を全員で把握し、話し合い共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが日々の生活の中で変化に気が付き、担当者会議・フロアー会議時に話し合い 全スタッフで共有しています。	病院や自宅で初回アセスメントを実施し、生活歴などを聞き取っている。毎月のケアマネジャーの訪問時にも家族から情報を得ている。毎月のカンファレンスで職員から出された意見を基に、ケアマネジャーがモニタリングを行う。計画作成後は、6か月ごとに評価を行い、計画書を更新している。	医師等の意見も計画書に反映し、チームケアの推進を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間ごとのご様子やご利用者の言葉などを記録しています。日々の情報、申し送り、フロアー会議にて情報共有及び、介護計画書の反映、見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に必要なサービス、今後必要なサービスは何かを考え本人と家族の関係性、意向を考慮しながら、かかりつけ医の受診支援、申請代行などに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによるフラダンス・コーラス・お囃子など来ていただき豊かな暮らしを楽しんで頂く様に支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本ご家族様対応でかかりつけ医に受診していただいておりますが、ご利用中の様子をご家族にお伝えし、かかりつけ医からは在宅療養計画書を頂き支援に活かしています。	これまでのかかりつけ医に家族が同行して受診している。家族が都合が悪い時などは職員が支援を行う。必要と思われる時は、職員が家族と同行し受診する。薬や病状の変化があった時は「受診報告書」に記入し、職員間で情報を共有している。同じ建物のグループホームに往診医が来るときに相談することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日々の情報や気づきなどを申し送り・申し送りノートに記載しスタッフ・看護職員間で共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、施設の様子を病院関係者・ご家族に迅速に提供し関係づくりに努めています。ご家族と連携をとり面会を行い。病院相談員と連携し情報の共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時などに行く病院や医療的な判断が必要な場合の対応等ご家族と利用開始時やケアプランの更新時に話し合い確認をしています。必要に応じ訪問看護・福祉用具、必要なサービスの利用の説明もしています。	法人の「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」があり、利用開始時に説明し利用者家族に同意書を受け取っている。開所2年なので看取りの事例はないが、職員は毎年看取りについての研修を受けている。2月にAEDの講習を行った。	実際に看取りの希望があった時に事業所としてどのような対応が出来るかを話し合い、書類を整備することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修や社内研修で急変時対応・事故対応の研修を行い発見時の対応や報告が出来る様に努めています。不安・問題点がある時などフロア会議・申し送り時に解決に努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域子母口消防署にご協力頂き、昼夜間想定避難訓練と消火活動のご指導を頂いています。地域からは民生委員の方々に避難訓練に参加して頂き現状の理解を深めています。	グループホームと合同で、年に2回、5月と12月の運営推進会議の際に避難訓練を行っている。5月は夜間を想定し、利用者が寝ている状態からの避難誘導を行った。11月の訓練では避難ベルのテストを行うため、近隣宅を個別訪問して説明した。その結果、民生委員の他に近隣の住民3名の参加があった。3日分の水や食料品、カセットコンロなどの備品がある。備蓄リストは法人が管理しており、3年ごとに入れ替えを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は、人生の大先輩である事を意識して、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。自尊心を傷つけないような声掛けを行っています。	職員は入職時に言葉使いや挨拶などの研修を受けている。毎年接遇についての研修がある。トイレ誘導の声かけは耳元で行っている。広報で使う写真は、顔がはっきりとわからない程度の大きさのものを使用している。元クリーニング店員の利用者に洗濯物を畳んでもらったり、庭仕事の好きな利用者に植木の手入れをしてもらうなど、利用者が得意なことをしてもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉による他者への不愉快や不穏、健康状態の支障のない限り自己決定を出来るように心掛けています。レクレーションなどご自分がやりたい事など声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせ、ゆっくりしたい時には声掛けし横になってもらったりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意見や希望を尊重し、季節にあった身だしなみの声掛けをしています。定期的な訪問理美容のご案内をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や職員がご利用者の食事形態に合わせて調理している。ご利用者様の負担にならないように食器拭きなどしていただいています。	配食業者のメニューに沿って、食材が前日に届く。調理は職員がしている。毎月15日は「季節ごはんの日」とし、旬の食材を使い工夫している。おせち料理や行事食に、ランチョンマットなどを工夫し季節を楽しめるようにしている。外食は多くないが、希望によりテイクアウトや出前などにして、楽しめるようにしている。利用者は食器拭きなどを手伝っている。	各テーブルに職員を配置するなどして、会話しながら楽しく食事ができるように働きかけることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材の配達を利用し、施設で調理を行っています。その方にあった形態やご飯の量を調整し摂取量・水分量を記録し不足の方には工夫して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアの声掛けを行い個人に応じた対応を実施しています。お泊まりの方は、義歯の消毒洗浄は夜勤スタッフが洗浄剤へのつけおき管理をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより誘導・介助を行っています。尿意・便意のない方やうまく伝えられない方は、排泄パターンを把握しトイレ誘導し、声掛けを行っています。	トイレは3か所あり、うち1か所は車いす用である。個人記録に排泄時間をチェックし、利用者の排泄パターンを把握している。時間を見て、さりげなく声掛け、誘導をしている。トイレでの排泄を基本に、自立の支援を行っている。自宅での排泄にも配慮し、通いの「連絡ノート」で家族と情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の水分量・食事量、排泄記録を残し、便秘発見と予防に努めています。散歩や体操を行ったり牛乳入りの飲み物を提供したりご家族と連携をとり下剤の服用も支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思を尊重し体の状態も考慮し気持ちよく入れるよう雰囲気作りと声掛けを心がけています。入浴が出来ない時が続く場合 温かいタオルで清拭対応しています。	脱衣所には冷暖房の装置があり、ヒートショックを回避できるようになっている。浴室はリフトやミスト付きのシャワー台も用意され、重度化にも対応できるようにしている。利用者は主に通いの時に入浴している。ゆず湯やしょうぶ湯などの楽しみの他、湯河原温泉の足湯を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時などは、宿泊室にご案内し休んでいただいています。お一人で移動が困難な方はスタッフが支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を実施し飲み込むまでそばを離れず確実に服用して頂く様に支援しています。症状の変化や経過などご家族へ情報を伝えています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人が誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて頂けるように努めています。洗濯物たたみなど手伝って頂いています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り近隣の散歩や庭での外気浴・ドライブをおこなっています。ご家族に協力いただける方は、ご家族共に外出していただいています。	天気の良い日は車いすで近くの公園へ散歩に行く。歩ける人はドライブで遠方の公園や買物に行く事もある。訪問サービスの時に買い物へ行ったり、通院時に寄り道したりすることもある。近くの公園や等々力公園へ花見に行くなど、いつもと違う風景を見ることができるよう配慮している。行事として計画していた「バラ苑」への外出は2度とも雨で中止とした。天気の良い日はウッドデッキで日光浴をする利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事務所で使い使った額を請求する立て替え制度を取っています。ご自身で管理できる方、希望によりご家族了解の上、少量の現金を所持している方もいます。送迎時にお買い物をされる方もいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了解の上 用事がる時など電話が出来るように支援しています。携帯電話の持ち込みも制限をしていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を取り入れながら常に花を絶やすことなく飾っています。フローアには、加湿器など置き湿度や温度調節を気にかけています。食事中は、気持ちが落ち着いて食事に集中出来る様に音楽を流して工夫しています。	玄関にはお雛様やボランティアが活けた花が飾られ、季節が感じられるよう配慮している。居間は広く、ゆったりしている。ウッドデッキに面したガラス窓が大きく、明るい。ウッドデッキのフラワーポットは、利用者と共に手を入れている。対面キッチンが食事作りの様子がよく見え、匂いなどで食欲をそそるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩室を作り、お一人になれる居室を用意しています。 また 利用日に応じ気の合う利用者様同士の食席に変更しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からクッション等を持ってきていただき自宅に近い感覚で過ごしてもらえよう努めています。	9室ある泊まりの部屋は居間を囲むように配置され、広くゆったりしている。隣室とは扉でつながっており、友人同士や夫婦で2部屋続けて利用することもできる。泊まりの部屋のドアには折り紙で作った名札がかけられ、プライバシーを確保している。利用者はひざ掛けやクッション、好きな飲み物を持参している。なるべく毎日同じ部屋に泊まれるよう、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりに合わせて。出来ることをやって頂き 洗濯物をたたんだり、食器拭きをして下さったりされる。宿泊室・トイレ・浴室など手すりやプレートで確認できるようにしている		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 花織 にかつ南

作成日 27年6月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	スタッフも11順番に休憩を取っている為各テーブルに職員を配置するのが難しい	なるべく各テーブルに職員を配置でき楽しく食事が出来る様にある。	スタッフの休憩時間など工夫して定期的に各テーブルにつく	27年7月末
2	26	医師等の意見など計画書に反映したがなかなか情報がいただけない。	医師等やご家族から情報をいただき計画書に反映できている様にある。	医師等からは居宅療養管理指導などいただきはいただけないところはご家族から情報をいただく	27年12月末
3		看取りの希望があってもご家族の協力には必ずないと難しい医療体制や人員配置など問題	看取り希望時ご本人・ご家族・医療チームの間での協議・意向を踏まえて出来る様にある	毎年看取りの研修をしいくとともに実際の看取りでは利用者にあたり方などを出来る様にご家族に話	27年度末
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。